

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

今号の『びっくり! エコ新聞』は、イベントや授業として、京都で実際に進められている活動をご紹介します。

『びっくり! エコ新聞』は、夏休み特別企画の「環境」として、「持活ランチ」を実施(※裏面参照)。学生と子どもたちが班に分かれて、食事に関連するSDGsの目標について学びました。「1 貧困をなくそう」「2 飢餓をゼロに」「15 陸の豊かさを守ろう」などの目標を考えたが、各人が環

今、地球上には約76億人の人間が生きています。その人たちが全員が日本人の現在の生活が続いていくためには、地球が2個以上必要になると言われていますが、それはとてもおそろしく、厳しい環境のもとで苦しい生活を続けている人がたくさんいるという現実があります。

SDGsは、たったひとつだけ、かけがえのない地球上で、資源や環境を壊さずに、みんなが幸せに生き続けられるように、大人も子どもも、一緒に考え、行動していくためのヒントであり、世界中でさまざまな取組が行われています。

今号の『びっくり! エコ新聞』は、

イベントや授業として、

京都で実際に進められている

活動をご紹介します。

『びっくり! エコ新聞』は、

夏休み特別企画の「環境」として、

「持活ランチ」を実施(※裏面参照)。

学生と子どもたちが班に分かれて、

食事に関連するSDGsの目標について

学びました。「1 貧困をなくそう」

「2 飢餓をゼロに」「15 陸の豊かさを

守ろう」などの目標を考えたが、各人が環

境を考えたが、各人が環

境を考えたが、各人が環

境を考えたが、各人が環

境を考えたが、各人が環

境を考えたが、各人が環

境を考えたが、各人が環

境を考えたが、各人が環

境を考えたが、各人が環

境を考えたが、各人が環

境を考えたが、各人が環

境を考えたが、各人が環

境を考えたが、各人が環

境を考えたが、各人が環

境を考えたが、各人が環

境を考えたが、各人が環

境を考えたが、各人が環

境を考えたが、各人が環

境を考えたが、各人が環

境を考えたが、各人が環

境を考えたが、各人が環

境を考えたが、各人が環

境を考えたが、各人が環

境を考えたが、各人が環

境を考えたが、各人が環

境を考えたが、各人が環

境を考えたが、各人が環

SDGsで持続可能な世界をめざそう!

地球上で起きているいろいろな問題を解決して、世界の人たちが生き続けていくことができるよう、みんな考え、行動に移していきたいと思います。

2030年の地球を支える
今の子どもたちと京のアジェンダ21
フォーラムSDGsマップづくり
(2016年10月5・2017年6月)

京都でSDGsにつながる動きをみつめて広く共有するために、いろいろな大学の大学生や大学院生の皆さんに集まっていたが、京都市内のSDGsにつながるような取り組みをしている会社・団体・お店などを学生の視点で取材してもらい、京都SDGsマップとしてFacebookやイベントなどで紹介しました。

エコあるど京大
持活プロジェクト

京都大学で地球環境問題に取り組む学生組織「エコあるど京大」が、2017年の京都議定書20周年、京都大学120周年企画として持活(持続可能な活動)プロジェクトを展開しました。そのなかで、SDGsの17の目標を達成する活動に挑戦しています。

持活ランチ
(2017年8月8日)

『びっくり! エコ新聞』夏休み特別企画の「環境」として、「持活ランチ」を実施(※裏面参照)。学生と子どもたちが班に分かれて、食事に関連するSDGsの目標について学びました。「1 貧困をなくそう」「2 飢餓をゼロに」「15 陸の豊かさを守ろう」などの目標を考えたが、各人が環



境や持続可能性に配慮したランチメニューを選び、食べ残しゼロにも挑戦しました。

安来小学校の授業に
協力(2017年9月4日)

総合的な学習の時間で環境教育に取り組んでいる京都市立安来小学校(山科区)の授業に、持活プロジェクトのメンバーと京都大学の浅利美鈴准教授(地球環境学)が参加しました。この取組については、中面で詳しく紹介します。

持活生活チーム、
原点チーム結成
(2017年9月14日)

持活生活チームはSDGsの17の目標を、それぞれの毎

日の生活で実行して達成することをめざして活動しています(下段コラム参照)。原点チームは、SDGsの内容について、掘り下げて研究しています。

京都大学ジュニア
キャンパスの実施
(2017年10月28日)

京都府内の中学生を対象としたゼミを開催。それぞれ10人の中学生と、大学生・院生が参加し、地球環境問題やSDGsについて学び、「私は何ができる?」というテーマで意見を出し合い、私の「持続可能な暮らし」を宣言。レジ袋をつかわない、オリジナルのマイバッグもデザインしました。



SDGsは、学校でも、家庭でも、1人でも学び、実行することが出来ます。中面で詳しく解説していますので、それを参考に、2030年の世界で中心的な存在となっている今の子どもたち一人ひとりが、自分のできる目標に取り組んでいきましょう。

未来のためには、今から世界を変える行動を始めることが必要なのです。

私たちのSDGs的生活

「SDGsって難しい」と思っている皆さんに朗報です! 暮らしの中でできることがたくさんあるからです。京都大学の持活メンバーの実践・コメントからヒントを探してみてください。ここでは特に、**日本であまり達成できていない項目**、つまり中面左下で赤色・オレンジ色・黄色の目標に注目します。生活の場面で考えると、ほら、できそうではないですか!

食べる

余熱調理をする、食べ残しをなくす、お酒を控える、ウナギを食べない、ブラックバス等の外来種を食べる 等々

達成できる目標



ウナギはお好き?

ニホンウナギが絶滅危惧種に指定されていることを知っていますか? 普段からお店に並んでいるため、知らない人も多いかもしれません。理由は稚魚であるシラスウナギが獲れないことにあります。そこで、私たちはウナギを食べないことにしました。でも、私たちがウナギを食べないとウナギ屋さんは困ってしまうかも? 早く、完全養殖を達成して、堂々とウナギ屋さんに行きたいですね。



岡島 未奈

暮らす

節電する(エアコンやテレビをこまめに消す)、自宅で太陽光発電をする、避難用バッグを用意する 等々

達成できる目標



避難用バッグを用意してみました! が……

もしも災害が起こったときのために避難用バッグを用意してみたけど、必要なものがけっこう多いなあ……僕のバッグだと入りきらないや。こんなに多くのものを持って避難できるだろうか? 力の弱い小さい子どもやお年寄りだったら?



西堀 功規

洗う

節水する、洗剤を使いすぎない、米のとぎ汁を花にあげる 等々

達成できる目標



使う

使い捨てのわり箸やおしぼり、ビニール袋をもらわない、ごみの分別を行う、家庭で出た資源ごみはスーパーの回収ボックスへ、詰め替え用容器を利用する、古紙回収を利用、裏紙を使う 等々

達成できる目標



「簡単」「便利」の裏側

コンビニエンスストアや百貨店で買い物をすると、店員さんが勝手に袋に入れてくれます(一部では渡さない努力をしているところもあります)。何もなくてよくて便利ですね。買ったお弁当を食べ終わったあとは、お箸と一緒にレジ袋に入れてそのまま近くのごみ箱にポイ! これもまた便利ですね。ですが、私たち消費者が「簡単」「便利」なものを求めれば求めるほど、その裏側で見過ごされるものや失われていくものがあることを忘れてはなりません。



久保 文乃

達成できない目標は「ない」

まだまだ難しい目標もたくさんありますが、ある目標を達成することで、別の目標が達成されるということもあります。

例えば、節電やごみの分別は、気候変動対策につながります。火力発電所の稼働を減らすことやごみの焼却量を減らすことは、CO2等の温室効果ガスの削減につながるからです。

また、教育をみんなに提供することは、男女間の不平等の解消につながります。みんながきちんと教育を受けられるようになれば、男性も女性も同じように働くことができるようになり、男女間の賃金格差の解消につながるからです。



難しいと
なげだしては
いけませんね!



そもそも SDGs（えすでーじーず）って何？

サステイナブル
Sustainable
持続可能な

デベロプメント
Development
開発

ゴールズ
Goals
目標

持続可能な世界の実現を目指して、2030年までに達成する17の目標を定めたもので、2015年9月に国連サミットで採択されました。

持続可能な世界って？

持続可能な開発とは、将来の世代のための環境や資源を壊さずに、今の生活をよりよい状態にすることです。今ある資源をすべて使ってしまう、未来の人々に何も残さない開発は、持続可能ではありません。持続可能な開発とは、共に成長し、他者を思いやり、環境を大切にすることの取り組みです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



1 貧困をなくそう
貧しくて、ご飯を食べることができない、学べる機会がない、病院にいけないなど、困っている人がいない、みんなが幸せな世界にしよう！



2 飢餓をゼロに
みんなが、栄養あるごはんが食べられて、作物を安心して育てられる環境をつくっていこう！



3 すべての人に健康と福祉を
赤ちゃんからお年寄りまで、病気になったら、お医者さんに行けて、健康に安心して暮らせる社会を目指そう！



4 質の高い教育をみんなに
みんなが、ちゃんと学校へ行けて、学びたいことを自由に学べる世界をつくらう！



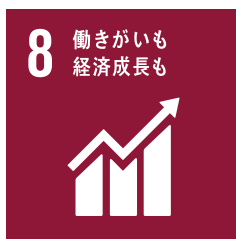
5 ジェンダー平等を実現しよう
女の子だって、男の子とおなじように暮らして行けて、みんながなりた自分になれる社会を目指そう！



6 安全な水とトイレを世界中に
世界では24億人、つまり3人に1人がトイレのない生活をしている。みんながきれいな水とトイレのある清潔な暮らしができる社会を目指そう！



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
世界のみんなが、電気やガスなどのエネルギーをいつでも安心して使える社会にしていこう！



8 働きがいも経済成長も
みんなが、自分のやりたい仕事を指せて、豊かな暮らしのために安心して働ける世界を目指そう！



9 産業と技術革新の基盤をつくろう
世界のみんなが、今より豊かな生活ができるように、役に立つ技術や物を生み出せる社会にしよう！



10 人や国の不平等をなくそう
不平等をなくし、みんなが安心して自分らしく暮らせる世界にしよう！



11 住み続けられるまちづくりを
災害に負けない強い街、みんなが安心して暮らせる街をつくろう！



12 つくる責任つかう責任
みんなが豊かな暮らしをするために物をつくること、物をつかうことに責任をもっていこう！



13 気候変動に具体的な対策を
人間の活動のせいで地球の気候が不安定になり、災害がふえている。今、自分が何をできるかを考えよう！



14 海の豊かさを守ろう
海をみんなでキレイにし、海の生き物たちを守ろう！



15 陸の豊かさを守ろう
陸に生きる動物たちの命をまもり、木や森をたいせつにしよう！ 自然を守るためにも、身近な物をたいせつにしよう！



16 平和と公正をすべての人に
平和でみんなが参加できる社会をつくり、すべての人がルールを守って、安心して暮らせる社会をつくらう！



17 パートナースhipで目標を達成しよう
世界中のみんながよりよい環境で生きられるように、みんなで一緒に考えてがんばっていこう！



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

日本は、SDGsをどれくらい達成しているか？！

緑が達成、赤にいくほど未達成（赤信号）です！



日本の達成状況は157カ国中、11位（OECD35カ国中でも11位）。G7の中ではドイツ、フランスについて3番目。

出典：http://www.sdgindex.org/assets/files/2017/2017-SDG-Index-and-Dashboards-Report--regions.pdf



話をしてくれまして、私も内容も難しく、すぐに理解することはできませんでしたが、子どもたち同士で話し合い、教え合って自分たちでわかることから少しずつ理解を深めていくと、安朱の自然を守り続けるためには地球環境問題の解決が大切だということがよくわかりました。



先生たちの依頼で、ゲストティーチャーとして安朱小学校を訪れた浅利先生は、写真やグラフなどを示しながら、専門分野である地球環境問題とSDGsについて、子どもたちに話をしてくれまして、私も内容も難しく、すぐに理解することはできませんでしたが、子どもたち同士で話し合い、教え合って自分たちでわかることから少しずつ理解を深めていくと、安朱の自然を守り続けるためには地球環境問題の解決が大切だということがよくわかりました。

ESD（持続可能な開発のための教育）のなかで環境教育に取り組み安朱小学校（山科区）は、山科疏水沿いの桜や栗の花、安祥寺川のホタル、毘沙門堂の紅葉など、四季折々の自然の美しさに恵まれた地域にありま

SDGsを総合的な学習の時間で活用

京都市立安朱小学校5年生の取組

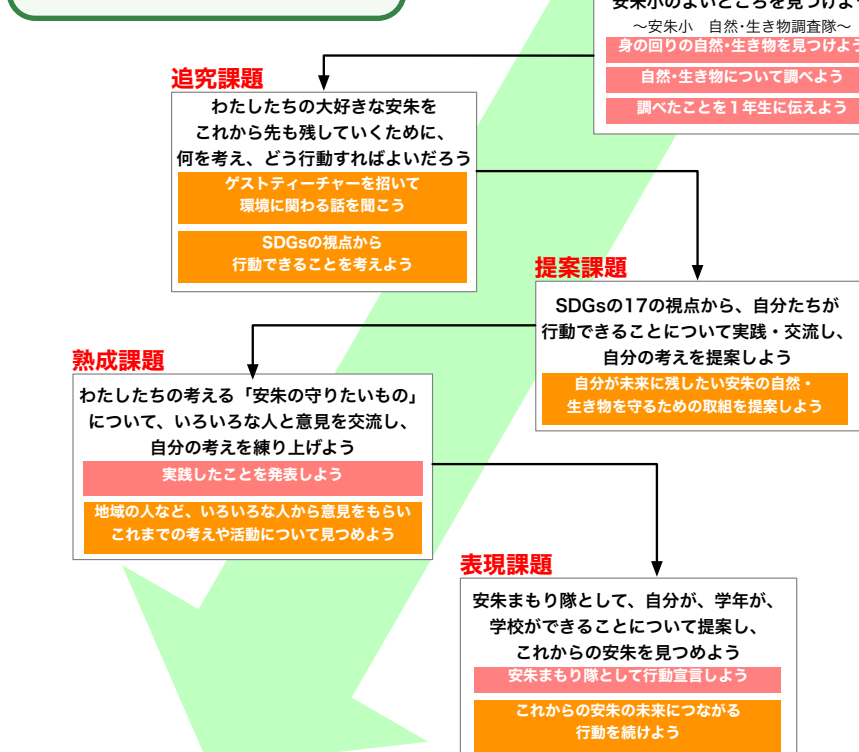
わたしたちの安朱まもり隊



5年生は、安朱の自然を大切に守りたいという思いをこめて、総合的な学習の時間「わたしたちの安朱まもり隊」に取り組みました。

まず、子どもたちは、自分が好きな校内の自然や生き物を見つけて、1年生に「安朱のたぐさんの素敵」を伝えることからスタートしました。そして、それを残していくための具体的な行動につなげるには、子どもたちの学びをどのように広げ、深めていけばよいかと先生たちは議論していました。そのとき、「びっくり！エコ新聞」(第8号)に掲載された浅利美鈴准教授（京都大学地球環境学）の書いたSDGsに関する記事に出会ったのです。

わたしたちの安朱まもり隊



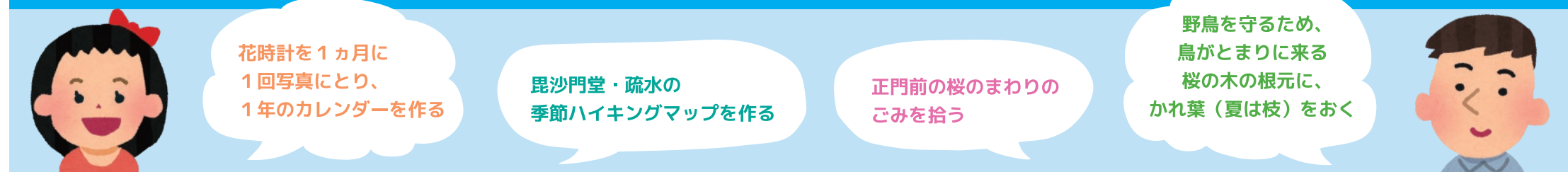
SDGマップづくりを体験して、最初はあまり関心がなかった子どもたちも、目の色が変わりました。

SDGマップでわかったこと
次に取り組んだのはSDGマップづくりです。山科区の会社や、子どもの福祉のために活動している特定非営利法人「山科醒醐こどものひろば」の協力を得て取り組みました。
山科の町を歩きながら調査し、標識や掲示物、建物などがSDGsの17のどの目標に当てはまるのか、番号のシールを地図に貼っていました。たとえば疏水を見たとき、最初は「6安全な水とトイレを世界中に」のシールを貼って満足していましたが、疏水がどんな思いでつくられたのか、ということに思いを向けて、他に見方はないのか、子どもたち同士で意見を出し合ってみると、「7エネルギーをみんなにそしてクリーンに」や、「9産業の技術革新の基盤をつくらう」「11住み続けられるまちづくり」も当てはまることに気づきました。このとき役立ったのは、17のゴールを輪状に配置した思考ツールです。これを使うと、一つの見方だけではなくいろいろな見方や考え方があることが視覚的にとらえられるだけでなく、17のゴールは独立しているのではなく、つながりがあることもよくわかりました。

未来を変える第一歩

SDGsを通して、多様な物の見方があることを知り、安朱から山科の町へ、そして京都市、日本、世界へと思いが広がっていくのを実感しながら、最終的には自分自身に戻す――安朱の自然や生き物を未来に残すために、自分ができることはなんだろうかと子どもたちは考え、それぞれ実践していききました。他人任せではなく、自分が発信していくため、考えをもったり行動していくことが未来を変えていく第一歩になる。SDGsの「持続可能な開発」という難しいことばの意味が、少しずつわかってきました。SDGsでつながる多くのの人たちや広かった世界の物の見方などを大切にしなが、子どもたちは最後の授業で、「一人ひとりの「行動宣言」を、胸を張って、大きな声で発表しました。

子どもたちの行動宣言



担任の先生のことば

服部真実 先生

人のつながりの大切さを実感しました

私が大切だと思っているのは、人とのつながりです。SDGsを使った今回の授業では、いろいろな見方ができることを学び、友達の新しい発見や発想におどろいたり、共感したりする経験ができました。普段の授業ではできなかったことで、私自身の勉強にもなりました。

校長先生のことば

加村和美 先生

学びの中からの「気づき」をたいせつに

先生やまわりの大人から言われるのではなく、子どもたちが学びの中から気づいて、安朱の自然を未来に残していきたいという思いを持ち、実生活・実社会へとつながる貴重な経験ができたと思います。SDGsを教えてくださった、浅利先生との出会いにも感謝です。

担任の先生のことば

山内真吾 先生

広い視野をもつためのツールだと思います

広い視野で物事を見るというのがどういうことなのか、実感できました。17の具体的な目標を示されたことで「意識」が生まれ、その意識がまた違う意識に広がっていくので、ほんとに貴重な17のゴールなんだなあと感じられたのが、このSDGsの学習だと思います。

浅利先生のことば

浅利美鈴 先生

未来は明るいと感激！

大学生も苦悩しているSDGsの学習ですが、小学校で、こんなに素晴らしい取組になるとは……未来は明るい！ 感激しました。普通に暮らしていると、世界が危機的な状況と感ずることはないと思いますが、いつかきっと、この学習が活きると思います。

とけない かき氷ランプ を作ろう！

指導：とだ まきこさん

一度使われるだけのペットボトルで、かき氷ランプを作る体験です。プラスチックを小さな花や星の形に切りとって色をつけて貼り付け、トッピングすると、オリジナルの「夏の思い出」が完成しました。



◆ ぼくは、ペットボトルのキャップを集めて、恵まれない環境にある子供たちにワクチンを届ける働きに参加しようと思いました。(野村 誉主 歩くん)

SDGsランチ

指導：エコ〜るど京大のメンバー

ランチの時間には、大学生とSDGsについて学んだあと、中央食堂でメニューを自分で選び、「持続可能な世界」のために、一人ひとりが食事を通してできることについて考えました。



- ◆ 今回、SDGsのことをはじめてきき、ぼくにもできることがあるとわかりました。つくるせきにん、つかうせきにんのことを考えながら、食べものをえらぶということも教えてもらいました。(閻谷 大喜くん)
- ◆ SDGsの目標を実現するために、私たちにできることはないかと考えてみました。そして、京大でSDGsのことを考えて昼食を選んだことを活用して、夕食を作ってみました。(山口 妃奈さん)

夏休みの宿題対策

イベントを開催しました

夏休みの一日、京都大学本部構内において「大学でプロと「夏休みの宿題」を極める一日」が開催されました。『びっくり！エコ新聞』(第8号)を読んで応募した41名が参加。京都市立塔南高等学校と京都橘中学・高等学校の生徒さんのサポートを得て、3つのテーマに取り組みしました。



地球の大きさを 自分の“足”で測ってみよう

指導：石川 尚人 先生(京都大学総合人間学部)

自分の歩幅を測定したうえで、大学内の二地点(同経度)を4回歩いて歩数から距離を出し、GPSでわかる地点間の緯度差から地球の外周を計算しました。



- ◆ 足で地球の長さがはかれるので、計算ってすごいなあと思いました。(奥森 隼也くん)
- ◆ 実際の地球一周のきよりは約40,075kmなので、自分の測定(39,548km)は大成功といったいと思います。(奥田 ころさん)



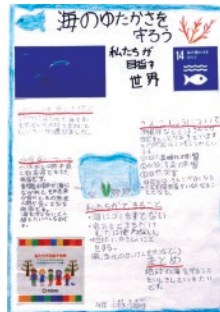
坂垣 七海 さん
(修学院第二小学校 3年)



中村 叶那 さん
(京都女子大学附属小学校 5年)



閻谷 大喜 くん
(待風小学校 4年)

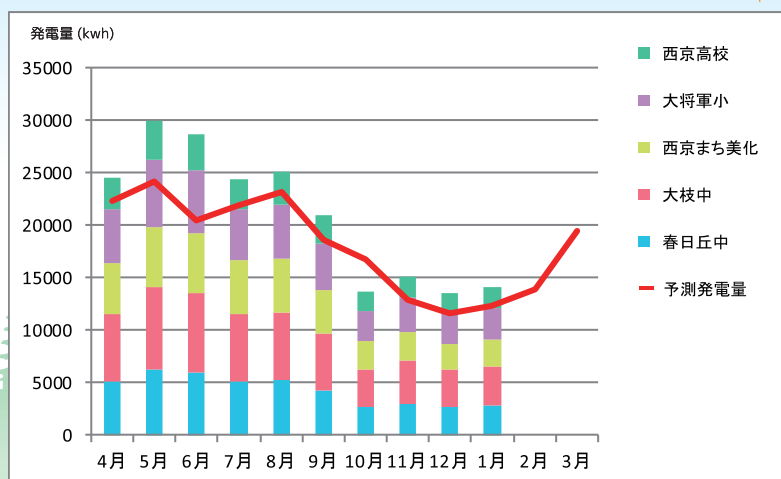


小牧 沙耶佳 さん
(桃山東小学校 4年)



野村 誉主 歩くん
(常盤野小学校 4年)

びっくりエコ発電所活動レポート

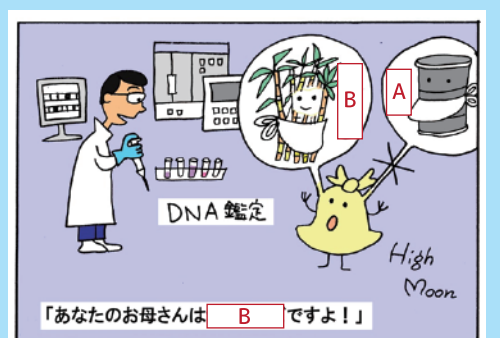
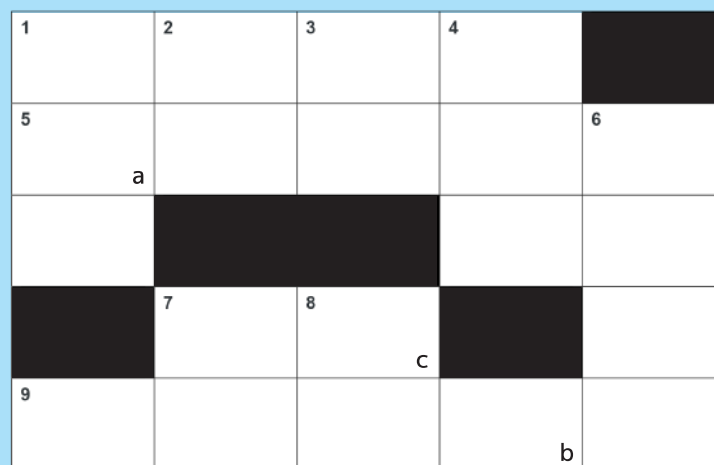


京都市市民協働発電 2017 年度発電実績

京都市市民協働発電の取り組みのうち、当団体は5カ所の施設で行っております。2017年4月から2018年1月まで、予測発電量に達しなかったのは10月のみで、順調に推移しています。引き続き、施設の発電状況をモニタリングし、事業の安定的な運用をまいります。

エコクロスワードパズル

みなさんは、ごみ出しを手伝ったことはありますか？
ごみにまつわるキーがたくさんある問題に挑戦！



作者註：京都市ではバイオマスポリエチレン製の「C」を導入する予定です

まんがの出典：ゴミック新作集 5-10 (びっくりエコ発電所代表理事の高月紘先生＝環境まんが家ハイムーンの作品です)

- 【タテのキー】
- 生ごみは、リサイクルして、豚などの○○○することができます。
 - 千百年の長い歴史を持つ京都のことを、こう呼ぶことがある。
 - カレー○○は、賞味期限が切れてもすぐに食べられなくなる訳ではない。
 - まんがの【A】
 - 京都市では、缶・びん・PETボトルは、資源ごみとして出され、リサイクルされる。びんの素材、ガラスのことを、ボルトガル語でいう。
 - 燃やせるごみに入っている○○の多くは、雑誌などとして分別・リサイクル可能だ。
 - 地球環境を守るのは、みんなの○○！
- 【ヨコのキー】
- 薄い生地を焼き上げた本高砂屋の名物菓子。
 - まんがの【B】
 - スプレー缶を捨てるときは、使い切った○○にして、安全に。
 - まんがの【C】

答えは

a
b
c

★正解を下の宛先にハガキでお送りください。正解者の中から抽選で2名様にてぬぐいをプレゼントします。

supported by



(順不同)

応募については、次の発行事務局までお送りください。

宛先

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学地球環境学 浅利研究室

びっくり！エコ新聞事務局

Mail : ecocheck@eprc.kyoto-u.ac.jp

- 【1】お名前 【2】所属 【3】年齢(学生の場合は、学年も)
【4】住所 【5】電話番号 【6】メールアドレス

※なお、これらの情報は、本件に関する連絡以外では用いません

